

2021年夏 思春期の子どもを支える会 勉強会 グループディスカッションまとめ

Iグループ

参加者：羽曳野市フリースクール代表 今西逸子さん

羽曳野市向野保育園 福田美渉さん・田形さとみさん

河内長野市 三日市小学校 養護教諭 荻田智子さん

河内長野市子ども・子育て総合センターあいく代表 吉富裕子さん

話した内容

①自己紹介

今西さん：羽曳野市でフリースクールの代表をしている。元々は学習塾からのスタート

だったが、学習塾は16時頃から始まるのでそれまでの間に学習支援をできると思い立ち上げた。学校にいけない子が通ってきて、学習支援から高校受験に至った子もいるが、学校にもフリースクールにも来ることができない子がいるのも現状。また、母親たちを支援すること（母親たちもどこにも行けない状態の人もいて孤立が心配）なので、連絡を密にして保護者同士の集まる場も企画していきたいと考えている。

荻田さん：河内長野市の小学校で養護教諭をしている。

福田さん、田形さん、吉富は自己紹介 省略

②主な話題

荻田さんより：小さい時からのつながっている支援について改めて実感した。

支援を受けられていない人（小学校、中学校でも、支援にたどりつけない）家庭や人についてどうアプローチできるのかと思う。

吉富より：あいくでは就学前の子どもの85%以上は登録ありだが、やはり1回きりの利用の人や一度も出会わずに就学している人もいる。どこで、出会うかわからないけど、初めて来てくれた人にできるだけ居心地の良い空間となり、いつか何か相談したくなったら「そうだ、あいくに聞いてみよう」と思ってもらえるように大事にしている。

フリースクールについての質問

どうやって、知れるか

⇒塾の情報は、HPで見つける。市が紹介などをしてくれるとありがたいのだが・・・。

助成金等で運営していない理由

⇒盲導犬にならなかった訓練済みのラブラドル犬がいる。将来的には動物介在教育なども考えているため、放課後等デイサービスのような仕組みにはしなかった。

民間塾なので、他市からの利用もOK（河内長野からも行けますね・・・）

居場所、学習支援、保護者支援の会（臨床心理士の方にも協力を得て企画している）

（費用は1時間1000円、月上限3万円）

荻田さんより：は一とが全出生時配布になるということを知り、本当にその通り。みんなが持っていて

いいものだということを実感した。それを持っている子が小学校に来るのはまだ少しかかるが、全員が持つことに納得して、知れてよかった。

羽曳野市にもあるのかな？という問いかけに、羽曳野は子育て支援に力入れてないので、サポートブックは見たことがないとのことでした。

2 グループ

参加者：河内長野市福祉部 障がい福祉課 城戸真理さん
耳原総合病院 大久保倫世さん
開業（堺市） 小寺樹里さん

話した内容

城戸さんのお話の2事例に対して、

- ・胸がしめつけられる思いがした。
- ・支援のあり方に答えがなく難しい。
- ・職場にも母親が統合失調症であるというヤングケアラーの後輩がいた。
精神面で不安定なところがあり、自己肯定感が低く関りが難しかった。

城戸さん⇒経験から、精神疾患を持つ親から子へは、心の脆弱さが連鎖することが多い。

育てられ方や環境からそうになってしまうのかもしれない。

発達障害者への支援に対して

- ・なんでもかんでも上手い出来ないことや特性を発達障害に結びつけてしまう風潮がある。
発達障害じゃなくても、宗教や好みで生活にいろいろなこだわりがある人もいる。
ちょっとしたことですぐ診断をうけたりするのはどうかと思うが、
反対に診断を付けてもらえて、腑に落ちた、生きやすくなった人もいる。
- ・診断テストを受けている人は、聴覚・視覚の得意不得意が明確になっているので
その情報を使って指導を工夫するとよい。
- ・型にはめて考えるのではなく、一人一人の育ての悩みに寄り添うことが大切。
母親のする子育てを見守り、専門職として、
このラインを越えてはいけないというマルトリの判断基準？みたいなものを持って見守ることが大切。

河内長野市あいつくの発表に対して、

- ・河内長野の子育て支援は素晴らしいと思う、河内長野で子育てがしたいと思った。

3 グループ

参加者：大阪府立大学 大野志保さん
近畿大学病院 久光由香さん
こころの産後ケアサロン（羽曳野市） 竹内サチエさん
河内長野市立東中学校 吉田博子さん

話した内容

*自己紹介

*感想、意見など

- 地域との連携、顔が見えるつながりの重要性を感じた。
- あいっくはいい活動をされているが、どこまでインフォームドされているのかが気になった。広く広報していくべき。
- 保育園の現状がそのまま。必要な人も多く、仕事をしている親は必死で子育てをしている。
- 障がい者の拾い上げの難しさを感じた。城戸さんに関わってもらっている子は救われるが、すべてのケースがそういうわけではない現状があるだろう。
- 子育て支援の中で、中学校から高校までが抜けているが、その時期に性教育等の重要な問題があると感じる。
- 子どもが小さいときからのサポートの重要性を感じる。地域でも見ていく必要がある。
- あいっくの支援は、知らないことも多く、世の中のお母さんにどこまで情報が届いているのか…。必要な時期にはない現状がある。特に生後すぐ。広報等で情報提供されていると思うが、お母さんの心の余裕が少しないと、目を通すことすらしないのではないか。
- 保育園でのお母さんとの関わりは、すでに負のスパイラルに入っているお母さんなら、なかなかヘルプを出しにくい上、時間が経過してしまうケースが多いのでは？結局、支援のタイミングがなくなって、ずっと後になって不応を起す結果になる。
- 市役所等に足を運ぶとき（婚姻届や出生届等の提出）に、オリエンテーションやライフプランの一覧表や相談窓口の一覧や、QRコードでアクセスできるサイトなどの情報提供してはどうか？！

以上

急遽司会・書記をしてくださった皆様、ありがとうございました。